

これからの入試広報Dos & Don'ts
「高校との関係づくりと入試広報」

名古屋大学 教育基盤連携本部アドミッション部門 永野拓矢

講師プロフィール

氏名 永野拓矢(ながの たくや)

所属 名古屋大学教育基盤連携本部アドミッション部門(准教授)

専門 教育学(教育政策)

職歴① 教育産業社員(13年)「入試分析」「高校訪問(営業)」「浪人生の進路指導」(勤務地:福岡市、名古屋市、札幌市)

職歴② 国立大学教員(14年目)「入試に関する業務(研究・分析・企画・広報)」「高校訪問(情報提供と収集)」「授業(学部生、院生)」(勤務校:岩手大学、高知大学、名古屋大学)

神奈川県出身

はじめに(高校訪問について)

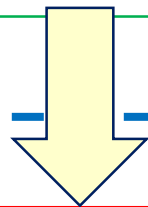
- 高校への情報提供は必要(効果的)か？

必要かつ重要。「現役志向」が強まっている昨今、(大学からの)情報提供は有益。

(今世紀以降“**高校諸改革**”の実施 → 「学校主導型」高校・中等教育学校等の充実・躍進)

- それでは、「高校に行けば(行くだけで)」歓迎されるのか？

とんでもない！ **高校**に応じた情報提供が必要。(高校訪問は簡単に非ず)



訪問前に**周到な準備**を行い、訪問後は学内で**情報共有**を！

「高校訪問」に関する考察①

- 進路指導に関わる多くの教諭は、「確かに訪問者の対応は負担になるが、生徒たちの進路に関係ある情報を収集するのが仕事の一部でもあり必要である」と、日常的な業務の一部として認識しているようである。
- 高校訪問をする上で、少なくとも次のような点には配慮しておく必要性が示唆された。まず、「訪問者の所属が生徒の進路先と関係あるかどうか」である。訪問高校の生徒がほとんど選択しないような進路先からの訪問は、高校としては負担に感じているようである。もう1つは「事前のAppointment」である。

西郡・藤田(2011)

高校への主たる訪問目的は、「(大学の)情報提供」と「(高校の)情報収集」

「高校訪問」に関する考察②

訪問対応経験には、訪問への**期待**と訪問への**批判**の2つが含まれる。

- **訪問への期待**に関する概念には、「**教育の特色**の重視」「わかりやすい**研究活動**」「**卒業生情報**を通じた信頼構築」がある。
- 一方で、**訪問への批判**に関する概念には、「**事実情報提供**への批判」「**募集主義的行動**への批判」「学習活動の**比較の困難さ**」「訪問者の個人特性」がある。

中島(2019)

大学からの訪問は歓迎も、「(集中すると)1日15校以上の訪問あり」に留意！

高校訪問のポイント「情報の提供と収集」

訪問校の状況(トップ校～進路多様校)や時期(初夏～初冬)によって「求める情報」が異なる！

①大学・学部情報の提供(高校によって「求める情報」は異なる！)

- ・“読めば分かる”パンフの類は持参(説明)するも、そればかりに集中しない。
- ・他大学との比較はさりげなく伝える(あからさまに行わない)
- ・学部の特徴(研究・教育ほか) 例)AB学科で(人気の)B専攻にどのくらい進学可能なのか等

②高校情報の収集(毎年訪問する担当者は必須の情報)

- ・3年の文理のクラス数:把握することで「今年は理系が多いですね」といった話題に展開
- ・AO／推薦入試の関心の有無(学校が、ではなく「今年の3学年は」の意)
- ・医学科志望の人数 (≡ 難関大学を狙える層)
- ・浪人数:現役志向の有無

永野は②→①の
順でアプローチし
ています。

高校訪問のポイント「資料作成の意味」

完璧な説明を行っても、**教員から100%生徒に伝わることはない。「補足」資料は重要。**



名古屋大学 2019 案内「1」の特徴

- ① 「世界を舞台とする国際トップクラスの国立大学を創設して、世界実業の實力を特許大学とつくる」…「**国際国立大学**」に指定（東大、京大など6大）
- ② 文、教育、法、経済、情報、理、農、工、農の9学部と13の研究科（大学院）を擁した学生数約18,000名の多岐学科国立総合大学。
- ③ 最先端の最先端研究を推進する「21世紀にグローバル産業を牽引した日本人研究者14人」のうち、6名が本学に在籍する（研究員）。

④ 東京ドーム11個分の広大な東山キャンパス（他に医学部2キャンパス）

- ・キャンパス内に企業が多数、海外展開（名古屋大学）がある
- ・世界的な交通アクセス：名古屋駅から地下鉄約15分

⑤ 充実した学内研究施設（学外を含め、他にも多数）

- ・アジア文化研究
- ・宇宙地球環境研究所
- ・名古屋大学博物館
- ・最先端研究センター
- ・名古屋大学（シームレス）実証実験
- ・最先端研究センター
- ・プラズマ工学研究センター

⑥ 大学院進学率の高い割合（理・工・農学部は70～80%、学部による）

- ⑦ 名大の国際化：留学生の受け入れ（2018年度 約2,456名）
- ⑧ 「スーパーグローバル大学」トップ型型大学（全11大学）
- ⑨ 名古屋大学フロンティア100を創出。世界レベルの研究を行う大学に指定。
- ⑩ 2024年度まで、「名古屋大学の国際化戦略」を推進し続ける（定員拡大）。
- ⑪ 「グローバル30プログラム」(2021) 招致決定。8年度専攻領域特許
- ⑫ 入試は「学力重視」の推薦入試（センター制）と「個別試験重視（偏差）」の一般入試（一部例外の学部あり）の2種類（併用可）。
- ⑬ 大都会にありながら、緑豊かな環境等「5つ星」環境は毎月1万円から！

名古屋大学 2019年度入学者選抜状況

学部	推薦	センター	個別	合計	推薦	センター	個別	合計
文学部	10	10	10	30	10	10	10	30
法学部	20	20	20	60	20	20	20	60
経済学部	30	30	30	90	30	30	30	90
情報学部	40	40	40	120	40	40	40	120
理学部	50	50	50	150	50	50	50	150
工学部	60	60	60	180	60	60	60	180
農学部	70	70	70	210	70	70	70	210
医学部	80	80	80	240	80	80	80	240
合計	230	230	230	690	230	230	230	690

「オリジナル資料」に関心お持ちの方は、**名大版**でよろしければお送りします。

永野までメールにてご連絡下さい。

takuyan@nagoya-u.jp

名大入試の特徴(推薦・一般)

推薦入試

- ◎推薦（2,107人）に対し、推薦入試推薦の割合が他の国立大学に比べて多い（36.8人、17.5%）※国立大学AO・推薦制の平均16.6%
- ◎「新入試」を先駆けた、「多面的・総合的」な評価の導入（推薦提出書類等）
- ◎第1次選抜を行う学部多岐（国際総合部、推薦総合部「レッカー」と呼ぶ）
- ◎理学部（推薦）でユニーク選抜「**とがった**」高校生に注目！
- ◎医学部医学科（推薦）は、卒後の「医学研究費」志望者募集

一般入試

- ◎個別試験の「配点比重」が高い学部が多い
- ◎個別試験の「科目数」が多い学部が多い
- ◎高得点者抜（工、農学部）、第2志望者の導入（工、農学部、および医学部医学科）

名古屋大学理工農学部 推薦入試

自律性を高く重視の学部が多数！
チャレンジ精神と研究心で成果を挙げ、
個性と能力を伸ばす入試です！

一般入試もあわせて受験することができ、資格のチャンスが広がります！



★名古屋大学「2021年度」入試の予告★

① 試験の形式は試験、出題傾向としての変更

- ② 大学入学共通テストにおける配点制の改定（E/F 対策で 42 レベル以上を目標）
- ③ E/F の 42 レベル以上に相当する実力があれば認められることが想定されている高等専門学校による影響
- ④ 何らかの理由で上記②③のいずれも理由でない場合は、その理由を記した理由書と大学入学共通テストの記述式試験科目の科目について、一般入試の受験者として、大学入学共通テストの記述式試験科目を履修し、共通テストを履修する推薦入試については、原則として一般入試と同様とします。
- ⑤ 推薦・記述式試験の後継試験を自動的またはマニフェスト問題の得点に換算し、2021年度に換算されます。※原則として今年公表
- ⑥ 理工農学部 記述式試験マニフェスト問題の得点換算について 100 点満点とします。
- ⑦ 一般入試における**主体性重視の試験**については、一般入試における「主体性重視」を多岐の人と協働して学ぶ態度」の精神（調査等の活用）にかまちは、新学部設置準備に移行する 2023 年度入学年度に向けて検討を継続いたします

【上記①②③④⑤⑥⑦ともに、詳しくは本学ホームページ「2021年度入試の要項」における変更についてをご覧ください】

(まとめ) 高校訪問での留意点

- ①(訪問者自らが) **アポイント**をとる
- ②(事前に) 訪問校のことを知り、**当校の事情に沿った**情報を提供する
- ③相手の反応によって**滞在時間**を考える(5分～30分)
- ④訪問後は(学内で) **情報を共有**する
- ⑤他大学はもとより、自大学他学部の **悪口を謹む**(つい「比較」のつもりが…)
- ⑥(出来るだけ避けたいが) 同じ大学による学部等の連続訪問の場合、先発隊が報告書を作成し、「誰と面会し、何を話し、どのような情報を得たか」などを共有して、**二度手間にならぬよう**務める。
- ⑦その他

(まとめ) 高校が求める情報とは

- ①訪問高校に**適した**「大学・学部情報(教育や入試に関すること)」
「進路(就職・進学)情報」「学生の生活情報」ほか
- ②訪問校からの出張講義・相談会等の「**個別依頼**」について…依頼先が複数に跨がる場合があり、少々厄介だがこれも高校が「求める情報」のひとつ
- ③当校卒業生の成績や卒業後の情報…個人情報保護法に注意
- ④その他

ご静聴有難うございました。

参考文献

- 中島英博(2019)。「高校教員から見た大学による高校訪問」『名古屋高等教育研究』,19,99-114.
- 西郡大・藤田修二(2011)。「入試広報および入試改善に向けた情報収集－高校訪問活動から得られた知見－」『大学入試研究ジャーナル』,21,219-224.